

## 令和4年度第4回 新宿区リサイクル清掃審議会 議事要旨

1 日 時 令和4年9月29日(木) 14時～16時

2 場 所 新宿清掃事務所2階 大会議室

3 出席者

### 【委員】

出席(20名)

会 長	小野田 弘 士	副 会 長	崎 田 裕 子
委 員	奥 真 美	委 員	松 川 英 夫
委 員	藤 井 練 和	委 員	唐 沢 吉 治
委 員	安 井 潤一郎	委 員	森 まり子
委 員	松 永 健	委 員	吉 江 淑 子
委 員	板 本 由 恵	委 員	吉 川 ゆり子
委 員	松 永 多恵子	委 員	高 野 健
委 員	石 橋 朋 子	委 員	上 野 昭 子
委 員	尾 町 仁 美	委 員	反 田 麻 理
委 員	渡 邊 翠	委 員	村 上 道 明

欠席(2名)

委 員	露 木 勝	委 員	福 本 弘
-----	-------	-----	-------

### 【新宿区】

小野川環境対策課長、佐藤ごみ減量リサイクル課長、広瀬新宿清掃事務所長、栗木清掃事業担当副参事他

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 審議「新宿区一般廃棄物処理基本計画(令和5年度～令和9年度)(素案)(案)について」
- (3) その他「パブリックコメント・地域説明会の実施について(案)」
- (4) 閉会

5 議事内容

新宿区一般廃棄物処理基本計画(令和5年度～令和9年度)(素案)(案)について、区から説明し、審議を行った。各委員からの質問や意見、区の回答の要旨については以下のとおり。

【新宿区一般廃棄物処理基本計画（令和5年度～令和9年度）（素案）（案）について】  
（板本委員）

エコ自慢ポイントについて、登録申請できる拠点を増やしてほしい。

（佐藤ごみ減量リサイクル課長）

計画の中でも記載しているアプリの導入等とあわせて拠点の拡大も検討していきたい。

（渡邊委員）

資源をビニール袋による回収ではなく、コンテナによる回収に変更してほしい。ごみを減らそうと言っているのに、資源を出す際に必ずビニール袋が必要なのは、区としてどのように考えているのか。

（広瀬新宿清掃事務所長）

以前はコンテナによる回収を行っていたが、平成27年度に原則やめるようにした。それまでは拠点回収ということで、集積所とは別に拠点を設置しており、その数が少なかった。しかし、その後拠点ではなく集積所に赴いて回収する方式に切り替えた。集積所は区内に2万5,000余あるため、コンテナによる管理が難しくなり、ビニール袋による回収をお願いしているところである。

➡（小野田会長）

やり方をすぐに変更することは難しいと思うが、世の中の実態を把握しながら柔軟に対応していく必要があると思う。

（奥委員）

前回、区の役割として、事業用大規模建築物に対する指導を通して、食品ロス削減に事業者にも努めてもらうとあったので、事業用大規模建築物のうち食品関連事業者がどの程度あるかということを知りたいが、その数を正確に把握することが難しいことは了解した。そのため、今回の素案ではこの箇所を削除したという認識でよろしいか。

（佐藤ごみ減量リサイクル課長）

事業用大規模建築物のうち食品関連事業者の数については、次回の審議会の際に資料を提供し、説明できればと思う。

（奥委員）

計画に記載するからには、対象数をしっかりと特定した上で、様々な取組を推進して行ってほしい。

(崎田副会長)

新宿区3R推進協議会では、使い捨てプラスチック削減だけでなく、食品ロス削減にも明確に関わっていくことを情報共有した。食品ロス削減協力店の登録店舗数を増やし、そこで消費者の食べ切りを増やし、相乗効果が発生するような形にできるだけ早い段階で協力してできるような動きを進めている。エコ自慢ポイントについても、レジ袋削減だけでなく、食品ロス削減に貢献する店で食べ切ったときにポイントが付与されるように、スマホ等を活用した仕組みに変更できないかというようなことも3R推進協議会で話し合っている。地域の方々とともにやっていければと考えている。

(藤井委員)

対象が500件とか700件とかあったときに、最初に取り組むのは100件だけにするとか、具体的にターゲットを絞ったうえで事業に取り組み、そしてその結果課題が出てきたときに、現場に即して対応した方がいいと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

区で実施する事業も全て成功するわけではないので、PDCAサイクルでしっかりとチェックした上で、それぞれの業種別ごとに、時期や地域を限定したモデル実施も視野に入れながら進めていきたいと考えている。

➡ (小野田会長)

事務局は、委員から意見が出た時に、計画の中にすでに入っているのも意見として承るだけなのか、計画に反映させるのかを明確にした方が良くと思う。

(村上委員)

具体的にターゲットを絞り込んだ記載をすることは現段階では難しいが、今後調査や立入検査等を実施しながら実績を積んでいって、数値化した目標を設定できればと考えている。

(藤井委員)

食品ロス削減を真剣にやるのであれば、実態を把握し、適切な手法を定めて実施するという流れが必要なのではないかと思った。

(松永(健)委員)

最近では高齢化等の様々な理由により集団回収をやめる町会が出てきているが、区としてはどのように考えているのか。

(広瀬新宿清掃事務所長)

団体数が減少傾向にあることは把握しているが、今後課題を分析し、その結果を踏まえ働きかけをしていきたいと考えている。

(松永(健)委員)

集団回収をやっているとごみの出し方等について意識することになるので、人材や場所がないという問題はあるが、集団回収は良いものだということを念頭に置いて行動すると、ごみも減っていくのではと考えている。

(広瀬新宿清掃事務所長)

集団回収は、リサイクル意識醸成のために重要だと思っているので、若い方々も含めてどうすれば実施していけるのかということについて、課題分析を踏まえ検討していきたいと考えている。

(渡邊委員)

一般の区民は、集団回収の優位性を理解していない方が多いので、その辺の周知が徹底していないことも影響していると思う。

(松永(多)委員)

最近回収業者が厳しくなっており、例えばアルミ缶の袋の中にスチール缶が紛れ込んでいるとそれを置いて行ってしまふ。缶は回収した後どのような処理をしているのか教えてほしい。

(藤井委員)

回収後にリサイクルするのに単一素材の方が費用面から見ても処理しやすいし、その後リサイクルされたものを別の事業者へ販売する際にも、異物が混じっているとほとんど利益がなくなってしまうので、異物が混入している場合にその場に置いて行ってしまふことは考えられると思う。

➡ (小野田会長)

この辺りは全体的な課題でもあるので、出し手側でどのような対応をするべきなのかということ、先ほどの集団回収も含めて考え直さなければいけない時期に来ていると認識している。

(唐沢委員)

区は資料を多く作成するだけで、なかなか実行しないと思っている。実行できるものはすぐやるという姿勢がほしい。例えば、トレーをリサイクルする際に純度が非常に重要になってくるので、有色トレーと白色トレーを分別するようにスーパーや区民に働きかけるべきだと思う。また、区は国や都に積極的に働きかけ、ごみに対して先進的な自治体になることを望んでいる。

それから、計画の中で白色トレーは33施設で資源化を図っているとあるが、どこの施設を言っているのか。

(広瀬新宿清掃事務所長)

特別出張所ほか区の施設で白色トレーのみを回収しているボックスを設置している。周知が不十分な点については、今後充実させていきたいと考えている。

(上野委員)

食品ロス削減協力店のステッカーがお店に貼ってあっても、それが何を意味しているのか理解できる区民は少ないと思うので、「量り売りできる」とか「持ち帰りできる」とか何かわかりやすい文言でお知らせするなど丁寧な説明を行った方が良いのではないかと思います。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

食品ロス削減協力店については、これまでステッカー、ポスター、ホームページなどで紹介をしてきた。それらに加え、今年度、「量り売りをしている」「持ち帰りができる」など、どのようなことを取り組んでいるかをわかるような形にして、マップも掲載したパンフレットを作成しているので、次回の審議会の際にお示しする予定である。今後、食品ロス削減協力店の店舗数を増やしていくと同時に、それらを紹介できる方法、機会等を拡大していきたいと考えている。

(石橋委員)

計画素案の中に、「区内における食品ロスの実態の定期的な把握に努めます」とあるが、「定期的な把握を行います」とか「行って公表します」とかそういった表現の方が良いのではないかと思った。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

抽象的な表現になっている部分については、具体的な記載内容に修正していきたいと思う。

(高野委員)

意見として何うという書き方は、実際にはやらないと同義なので、こういう書き方はやめてほしい。どうしたら意見を反映することができるのかを考えてほしいと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

意見として何う、参考にするだけでなく、どのようにしたら意見を反映することができるのかということ詳しく示していきたいと考えている。

(尾町委員)

希望する小学校にはコンポストを積極的に設置するなどして、子どもたちの意識を変えられるような取り組みを行ってほしい。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

将来を担う子どもたちに普及啓発していくということは、非常に重要なことだと認識している。ただ、学校教育現場の負担も考えられるので、教育委員会と確認しながら、取り組める小学校のみならず、どのような形で実現することができるのかを検討していきたい。

(村上委員)

第三次環境基本計画の改定を同時並行で進めており、その中で環境教育、環境学習といった学びの場を増やしていこうということを方向性として示していこうとしている。当面はターゲットとしてカーボンニュートラルを優先して学校と連携して進めていこうとしているが、食品ロスについても今後混ぜていくような形で働きかけていきたいと考えている。

➡ (小野田会長)

最近、カーボンニュートラルの中に資源循環の議論も取り込まれるという流れになってきているので、環境教育、環境学習については検討してほしい。

(崎田委員)

食品ロス削減の取組を徹底した上で出てきてしまっているものに関しては、できるだけリサイクルするという流れがあるので、その部分をもう少し明確に強調して記載しても良いのではと思った。

また、食品ロス削減について、環境学習、環境教育に含めることは非常に重要なことだと思っている。学校で学習した子どもたちが家に帰って親にその内容を話すことで、親もやる気になると思うので、そういった輪を作っていけるような流れにできればと思う。そのためには区民や区内の団体が一緒になって輪を作るということも大事だと思うので、地域の皆さんを巻き込みながら取り組んでいければと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

食品ロス削減推進計画を見て、優先順位がわかるような形で、表現の工夫をしていきたいと考えている。

現在、区民、事業者、区内の各団体がそれぞれで行動する中、今後一体となって一人一人が取り組んでいくという意識付けができるような機会の創出に努めていきたいと考えている。

(渡邊委員)

新宿区は外食産業が非常に盛んなので、食品ロス削減についてもそこを重点的に考えていくべきだと思う。食品ロス削減協力店登録制度については、登録しやすくすることで店舗数を増やしたり、何か情報媒体に登録店すべてを掲載することで周知を行ったり、忘年会や新年会など何かグループの集まりがあるときに積極的に利用することを促したりすることでもっと広がっていくのではないかなと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

食品ロス削減については、なぜそれが必要なのかを理解してもらうことが重要である。ただ単に食品が大切だからということだけでなく、エネルギーやCO<sub>2</sub>削減という大きな課題解決にもつながっていくというところをしっかりと理解してもらうことが重要だと思っている。食品ロス削減協力店登録制度とともに、広報紙、パンフレット、大型ビジョン、スマホのアプリ等を活用して普及啓発を行っていききたい。

➡ (小野田会長)

計画素案の中にも「食品ロス削減協力店登録制度の拡充」とあるが、内容が伝わりやすいように表現をいくつか工夫した方が良いのではないかなと思う。

(上野委員)

食品ロス削減協力店登録制度に登録している店舗は、ホームページで確認できるが、高齢の方はなかなかホームページを見ることが難しいと思うので、区報などに掲載することはできないのか。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

制度の周知については、現状ホームページのみとなっているが、今年度は協力店のマップも掲載したわかりやすいパンフレットを作成中である。今後も区民の方にわかりやすく伝わるように様々な媒体を通じて普及啓発に努めていく。

(吉川委員)

区報に掲載するのは有効な方法だと思うが、最近の高齢者の方は、新聞を取らない方が多く、出張所に行かないと見られないので、75歳以上の方に配布している「ぬくもりだより」だったり、町会の掲示板に掲載すると関心を寄せることができるのではと思った。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

「ぬくもりだより」及び町会の掲示板に関しては、掲載する方向で調整していきたい。

(崎田委員)

リデュース・リユース・リサイクルの3Rを徹底した上で、その後どういうふう  
に私たちの暮らしに戻ってくるのかというリニューアブルの部分があまり強調されてい  
ないように感じるので、今後私たちは循環型社会を目指していくんだというようなこ  
とを共有できる文章が含まれていると良いと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

計画の基本的な考え方と目標の中に、リデュース・リユース・リサイクルの3Rが  
大切であり、その中でもごみの発生抑制が最も重要だと記載している。委員ご指摘の  
リニューアブルについては、自治体によっては5Rや7Rを掲げていることは把握し  
ているが、そういった表現が加えられるかどうかは今後検討していきたい。

(板本委員)

自分の住んでいる地域では放置自転車が多いが、それらをよく見てみると、パンク  
していたり、どこか部品が欠けていたりとか、買って数年も経たないうちに放置して  
いるようなものばかりである。そのため、3Rに修理するという意味のリペアを加え  
て4Rにすれば、ごみはかなり減るのではないかと思う。

(小野川環境対策課長)

現在、自転車の利用計画の改定を進めているところなので、今お話のあった内容に  
ついてはその場に伝えると同時に何らかの記載ができるかどうか働きかけていき  
たい。

➡ (小野田会長)

修理するという意味のリペアに関しては、リユースの一部として見ると整理しやす  
いのではないかと思う。

(佐藤ごみ減量リサイクル課長)

計画の中で、リユースの促進という部分で、日用品修理再生事業などを行っている  
、また3Rに取り組むということでの支援を行っていくということで謳っている。  
取組がさらに進めていけるように、わかりやすい表現に変更することも含めて検討し  
ていきたい。

(上野委員)

先ほどリペアの話が出てきたが、今の若い方は、例えばスマホで新しい機種が出る  
と、壊れてもいないのに購入している。これは社会の流れであり仕方がないことなの  
かもしれないが、昔は、ものが壊れたとしても直せるものは直してまた使うというよ  
うなことを言われて育てられてきた方がほとんどだと思う。今の時代にもそういう何  
気ない一言が大事になってくるのではと思っている。



【パブリックコメント・地域説明会の実施について（案）】

（佐藤ごみ減量リサイクル課長）

今後、パブリックコメントと地域説明会を実施する予定である。本日、素案として審議いただいた内容を反映させた一般廃棄物処理基本計画と、同時期に環境審議会で審議いただいている第三次環境基本計画について、幅広く区民から意見を募集するために実施するものである。

パブリックコメントに関しては、実施期間11月15日からの1か月間を予定している。周知方法は、広報新宿や区のホームページに掲載するほか、ポスター、ちらし、ツイッター、フェイスブック等で周知を行う。閲覧するものは、計画素案の本編と概要の2点で、閲覧可能な場所は、本庁舎7階のごみ減量リサイクル課及び環境対策課のほか、関係する区の施設で閲覧できるように準備を進めているところである。意見書は、郵送、ファックス、区ホームページ、ごみ減量リサイクル課及び環境対策課の窓口で受け付ける。

地域説明会は、第1回を12月3日土曜日の午後に新宿リサイクル活動センターで、第2回を12月4日日曜日の午前に四谷地域センターで、第3回を12月6日火曜日の午後に牛込笹笥地域センターで、第4回を12月8日木曜日の午後にエコギャラリー新宿で、それぞれ開催予定である。

次回審議会は12月開催予定。

パブリックコメントを踏まえた素案（案）について審議する。